

山里海医学共育プロジェクト 2025 とりだい夏プログラム

美しい山と海、数々のグルメに満ちた夏の山陰で楽しく臨床実習を行い、わが国トップレベルの救急・災害医療、感染症医療を体験しよう！

対象: 医学部医学科 1～6 年次学生

文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」(山里海医学共育プロジェクト)の対象となっている鳥取、島根、岡山、香川の各大学の地域枠学生を優先的に受け入れるが、地域枠以外の学生や上記 4 大学以外の学生も歓迎する。

実施場所: 鳥取大学医学部附属病院および関連施設

受入期間: 2025 年 8 月 4 日(月)～8 月 22 日(金)のうちの任意の期間。受講者の希望に合わせて 1 日間～1 週間のプログラムを提供する。

プログラム(各プログラムの詳細は別紙および下記 URL の通り)

- (1) 救急災害医療学クリニカルクラークシップ I (共用試験合格後の basic な臨床実習を行っている 4～5 年次学生が対象)
- (2) 救急災害医療学クリニカルクラークシップ II (advanced の臨床実習を行っている 5～6 年次学生が対象)
- (3) 総合感染症クリニカルクラークシップ I (共用試験合格後の basic な臨床実習を行っている 4～5 年次学生が対象)
- (4) 総合感染症クリニカルクラークシップ II (advanced の臨床実習を行っている 5～6 年次学生が対象)

<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/program/master1> (救急災害医療学)

<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/program/master3> (総合感染症)

※1～3 年次学生に対しては救急災害医療学、総合感染症の両プログラムとも各学年のレベルに応じたプログラムを提供する。

その他:

宿泊: 希望者は「とりだい病院 宿泊施設」(シングルルーム 3,300 円/1 泊、ツインルーム 5,500 円/1 泊)の利用が可能。

申し込み:

希望者は①氏名(ふりがな)、②所属大学、③学年、④地域枠か否か(地域枠の場合は選抜枠の種類等も記載)、⑤連絡先電話番号、⑥希望プログラム(複数選択可)、⑦希望実習期間(●月■日～○月□日の△日間)、⑧その他要望等(あれば)を明記し、E-mail または下記申し込みフォームから 7 月 29 日(火)までに申し込んでください。

申し込みフォーム:<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/topics/3805.html>

メール: 〒683-8503 鳥取県米子市西町 86

鳥取大学医学部地域医療共育推進室

E-mail: chiiki-suishin@ml.med.tottori-u.ac.jp

プログラム

【救急医学・災害医療学マスター養成プログラム】

救急災害医療学クリニカルクラークシップⅠ(4～5年次)

救急初療室では初療対応を指導医のもとで初療対応に参加する。

集中治療を要する患者に対する診療に指導医とペアで参加する。

地域の消防署の救急車やドクターカーに同乗し、病院前救急診療について学ぶ。

Acute Care Surgery・IVR・内視鏡治療等、侵襲的処置にも参加する。

救急災害医療学クリニカルクラークシップⅡ(5～6年次)

クリニカルクラークシップⅠに加え、下記のコースを選択する。(複数選択可)

- ①病院前救急診療コース:救急車、ドクターカーへの同乗、ドクターヘリ見学を積極的に行い 診療に参加するとともに、Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care(JPTEC)コースの受講を通し、病院前救護に必要な知識と技能を修得する。
- ②ER型救急医療コース:ERでの診療、比較的軽症から中等症患者の診療に参加。
- ③三次救急コース:二次救急では対応できない重症・重篤患者や特殊疾病患者を受け入れ、より高度な救命救急医療が必要な患者の診療へ参加。
- ④多発外傷コース:多発外傷時のダメージコントロールサージャリーや外傷初期治療に参加。患者不在時には、HoloLensを利用して、指導医とともに診療体験を行うことができる。
- ⑤熱傷診療コース:熱傷患者の熱傷深部評価・熱傷面積の評価を行い、自家培養表皮の手術に参加できる。患者不在時には、VRを利用し指導医とともに診療体験ができる。
- ⑥災害医療コース:災害医療対策を学ぶ。EMARGOトレーニングシステムを利用し、過去に起きた災害の分析や検証、現在の対応マニュアルの確認、想定したシナリオと設定に基づき机上の訓練など、様々な角度からシミュレーションを行う。事故・災害現場の再現、現場のトリアージや応急処置、後方搬送手段、各関係機関(医療、救助、警察)の役割と各機関とのコミュニケーション方法、搬送後の受入医療機関での対応など、救援に携わるあらゆる想定シミュレーションを行い、トレーニングを行う。

【感染症学マスター養成プログラム】

総合感染症クリニカルクラークシップⅠ(4～5年次)

外来患者、入院患者の感染症診療を指導医とともに、実践する。実践を通して、感染症診療の基本的考え方および抗菌薬の適正使用を身につける。感染症診療と感染予防策に関する総合的な理解を深め、実臨床に応用することができる能力を早期から身に付ける。

総合感染症クリニカルクラークシップⅡ(5～6年次)

クリニカルクラークシップⅠに加え、実習には、行政(地域感染制御ネットワーク、保健所)での感染対策に関する実習を含む。

下記のコースから希望の領域を中心に実習を行う。(複数選択可)

- ①感染症診療:感染症診療の基本的考え方および抗菌薬の適正使用を身につける
- ②微生物検査実習:グラム染色・血液培養・その他の微生物検査の内容を理解する
- ③感染予防策:手指衛生・標準予防策・経路別感染対策の理解および実践
- ④職業感染対策:流行性感染症に対する医療者のワクチン接種・体液曝露時の対応を理解する
- ⑤国際感染症:輸入・熱帯感染症の診断・治療および渡航ワクチンを理解・実践する
- ⑥サーベイランス:院内感染症サーベイランスを理解・実践し、感染予防につなげる
- ⑦感染対策における地域連携:同一医療圏内の医療機関・保健所との連携を理解する
- ⑧感染症シミュレーション教育:受講者に安全な感染症教育を行うために、感染症患者診察現場

や、防護具を着用しての医療実施現場をバーチャルリアリティ(VR)上で再現して教育を行うなど、VR、シミュレーション、リモート教育を積極的に取り入れる。このことにより、安全な感染症教育の実現とともに、遠隔地にいる卒後医療人(研修医等)へのプログラム参加も可能とする。